

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標) 助けあう子 きたえあう子		
学校経営の基本理念	目指す学校像等	教職員の基本姿勢	
【共に考え、共に実行する共生社会を目指して】 私たちは、子供たち一人一人の人格を尊重し、自らの人間性を高め、切磋琢磨し、常に向上していく同僚性の高い教員集団となることで、子供たち一人一人に未来を切り拓く力を身に付けさせることを学校経営の理念とする。	【目指す学校像】 子供たち一人一人の成長を共に支え、共に喜び合える学校 【目指す児童像】 目標をもち、仲間と共に考え、未来に希望をもってがんばる子 合言葉「ゴール (Goal)」「フレンド (Friend)」「トライ (Try)」 【目指す教師像】 子供たちの人格や感性を尊重し、共に成長を喜び合う同僚性の高い教員集団	(1) 子供の人格や感性を尊重する。 (2) 授業力の向上を常にめざす。 (3) 指導の基本を大切に、全教員で徹底する。 (4) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。 (5) <b>社会のグローバル化、多様化に対応できる学校づくりに努める。</b> (6) 常に <b>教育活動・校務事務</b> を見直し、改善につなげる組織となる。	

◇ 専科教員を含め全教員で取り組む ■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

領域	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標(★教職員の取組目標)	目標達成のための方策	成果指標	6月	10月	2月	成果確認方法
学びあう子「確かな学力の向上(本年度重点目標)」	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(教員の授業力の向上)(1)	①◇児童と共にめあてをつくり、見通しをもたせ、主体的に学習に向かう児童を育成する。	○単元の、また1時間の学習のねらいを明確にもつ。 ○導入や発問を工夫し、生じた児童の興味や疑問からめあてを作る。 ○児童にめあてを適時振り返らせ、学習内容と連動していることを意識させ、次の学習のめあてが考えられるようにする。 ○学習の流れの見通しをもたせるための手立てを取り入れる。	A 主体的に取り組んでいると考えている児童 90%~ 児童が主体的に取り組むための教師の授業改善に係る評価 90%~ B 主体的に取り組んでいると考えている児童 70%~90% 児童が主体的に取り組むための教師の授業改善に係る評価 70%~90% C 主体的に取り組んでいると考えている児童 ~70% 児童が主体的に取り組むための教師の授業改善に係る評価 ~70%	コロナ対応により変更 の場 あり			くにごアンケートによる評価 教員自己評価
		②◇自分の考えを伝え合い、広めたり深めたりする児童を育成する。(校内研究を核に全教科・領域で取り組む。)	○基礎的・基本的な指導事項の定着を図る。 ○自分の考えをもつ時間を確保する。 ○伝える必要性のある場を設定し、ペア・グループ・全体で考えを伝え合う時間を作る。 ○友達との考えの交流を通して、自分の考えを振り返り、言葉でまとめることで、考えの広がりや深まりに気づかせる。	A 伝え合いに関わる教師の授業改善に係る評価 90%~ B 伝え合いに関わる教師の授業改善に係る評価 70%~90% C 伝え合いに関わる教師の授業改善に係る評価 ~70%	変更の場 あり			くにごアンケートによる評価 教員自己評価 児童観察、ノート分析による評価
		③◇「はい・です」ができ、返事をし、「です」「ます」「思います」「からです」など、語尾までしっかりと言うことのできる児童を育成する。	○「はい・です」の掲示を各教室に掲示する。 ○呼名された際に返事をするよう各学級において指導する。 ○話の最後まで、場に応じた声の大きさと話すよう指導する。 ○よい話し方ができているときには指摘してほめる。 ○教師がよい話し方のモデルとなる。	A 身に付いた児童が、70%以上 B 身に付いた児童が、60%以上~70%未満 C 身に付いた児童の増加が60%未満	コロナ対応により変更 の場 あり			児童観察による評価
		④学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○宿題や授業の中でベーシックドリルを活用し、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。 ○計算の習熟に充てる時間を確保し、間違えた問題を直させることで、基礎的・基本的な計算の仕方を定着させる。	A 国語・算数の平均正答率が、それぞれ85%以上 B 国語・算数の平均正答率が、それぞれ80%以上 C 国語・算数の平均正答率のいずれかが80%未満	コロナ対応により変更 の場 あり			ベーシックドリルの平均点での評価
助けあう子「豊かな心の育成」	○自他を大切にできる心の育成(2)-①  ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもった児童の育成(2)-②  ○インクルージョン教育の理念を踏まえ、組織的な取組としようがいがある児童への理解・支援(2)-③	⑤◇自他を大切にできる児童を育成する。	○「楽しい学校生活を送るためのアンケート(QU)」を実施することで、児童自身に日頃の生活の様子を振り返らせ、意識向上を図る。 ○「楽しい学校生活を送るためのアンケート(QU)」を実施し、結果を教職員全員で共有し、実態に合った支援・指導を行っていく。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童の良さやつまずきを共有し、児童に自信をもたせるようにする。 ○道徳推進教師のリーダーシップのもと、道徳授業や道徳地区公開講座の充実を図り、自他を大切にできる心を育成する。	A アンケート結果が3以上の児童が100% B アンケート結果が3以上の児童が90%以上 C アンケート結果が3以上の児童が90%未満	変更の場 あり			楽しい学校生活を送るためのアンケート(QU)による評価 児童観察による評価
		⑥◇すれ違った先生や外部の方に、適切な(明確な声・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○学期ごとに「あいさつの取り組み」を行い、各学級で設定した「あいさつ宣言」や個人の振り返りカードを活用したり、一人一人の振り返りを全校共有の掲示物に示したりして、進んであいさつをする児童の育成を図る。 ○学期ごとに代表委員会によるあいさつ週間を設定して、気持ちの良い挨拶ができるよう一人一人に呼びかける。 ○全校朝会で6年生の代表児童があいさつを行い、全校児童に手本を示す。 ○教職員が模範となり、相手に聞こえる声ではっきりとした言葉であいさつをしたり黙礼したりする等、場に応じたあいさつができるような態度を養う。	A アンケート結果が3以上の児童が100% B アンケート結果が3以上の児童が90%以上 C アンケート結果が3以上の児童が90%未満	変更の場 あり			楽しい学校生活を送るためのアンケート(QU)による評価 児童観察による評価
		⑦◇教室での合理的配慮、保護者との合意形成を大切に、児童一人一人が居心地のよい学級(授業)となるようにする。★	○特別支援教育コーディネーターを中心に、SS・特別支援学級指導員・SC・SSW・特別支援教室巡回指導教員等と学級担任が連携しながら、児童一人一人の課題に応じた指導を推進する。 ○つくり学級との交流及び共同学習を継続し、特別支援教育への理解啓発を行う。 ○教室では、ホワイトボード等を活用して活動の流れを示すことで学習の見通しをもたせたり、黒板横の掲示物をカーテンで覆うことで集中を促したりする等の合理的配慮に努める。 ○保護者との合意形成を大切に、学校としての合理的配慮を組織的に進める。	A アンケート結果が3以上が100% B アンケート結果が3以上が90%以上 C アンケート結果が3以上が90%未満	変更の場 あり			教職員自己評価 児童観察による評価
きたえあう子「たくましい心と体の育成」	○心身の健康づくりに努力する児童の育成(3)-①  ○基礎的な体力の向上(3)-①②	⑨◇いじめや不登校の未然防止に努め、解決に向けて組織的に取り組む。★	○年3回「ふれあい月間(いじめ防止)アンケート」を実施して聞き取りを丁寧に行い、全職員で未然防止・早期発見に努める。 ○人権月間に、学級ごとに人権標語の作成、全校朝会での校長講話、ビデオ・DVD教材を活用した指導を行うことで、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○5年全員とスクールカウンセラーの面談を実施する。その際、年度当初に「心のアンケート」を実施し、児童理解に努めるなど相談しやすい環境を整える。 ○不登校対応担当を中心に不登校対策委員会を設け、不登校・長欠児童の共通理解を図る。また、子どもと家庭の支援員やSC、SSWと連携しながら、学習の場の提供や保護者との連携ができるように努め、解決を目指す。	A 1か月以内で、解決に向かった。 B 3か月以内で、解決に向かった。 C 解決に向けて、3か月以上経過している。	変更の場 あり			ふれあい月間(いじめ防止)アンケート実施結果をもとにした評価(教職員自己評価) 児童観察による評価
		⑧基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○年間8回、木曜日の中休みに「ハワーアップ」タイムを設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ハワーアップ」を学期に1回以上開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○各クラスで1年間を通して行える体育的活動を「一学級一実践」として設定する。 ○保健だよりにて、早寝早起き朝ごはんなどの大切さを伝え、保護者への意欲啓発を行う。 ○全校朝会で外遊びを促し、中休み、昼休みのどちらかは外遊びをさせるようにする。 ○1月のなわとびキャンペーンで、短縄をする。	A 休み時間に外遊びをする児童が85%以上 B 休み時間に外遊びをする児童80%以上 C 休み時間に外遊びをする児童80%未満	コロナ対応により変更の場 あり			毎学期、1週間チェックシートによる評価(外遊び週間)
		⑩■保健指導(手洗い・うがい・換気)を充実させ、健康に気を付ける児童を育成する。	○休み時間後や給食前に、手洗いうがいの声かけをする。給食前に「あわあわ手洗いの歌」を流す。 ○全校朝会や保健委員会の集会、保健だよりで、手洗いうがいの意義や仕方、感染症予防について呼びかける。 ○掃除や休み時間等で窓やドアを開け、換気をする。	A 手洗い、うがいをしている児童85%以上 B 手洗い、うがいをしている児童80%以上 C 手洗い、うがいをしている児童80%未満	変更の場 あり			くにごアンケートによる評価 児童観察による評価